

2017年度決算 会社説明会での主な質疑応答

- Q. 広島高等裁判所において伊方発電所3号機の運転差し止め仮処分決定を巡る異議審が進行しているが、運転再開についてどのように考えているか。
- A. まずは、異議審において、9月30日までとされている運転停止期限を少しでも前倒しできるよう、伊方発電所3号機の安全性に係る主張・立証に全力を尽くす。
なお、10月1日以降は、伊方発電所3号機の運転について、法的な問題はないものと認識している。
- Q. 2020年度に向けた今後の設備投資の見通しは。
- A. 2017年度の設備投資額（単独）は783億円と、中期経営計画の目標年度である2020年度までの5ヵ年平均830億円（単独）を下回る水準となったが、今後は、2020年度竣工予定の伊方発電所3号機の中長期対策に加え、2022年度竣工予定の西条発電所1号機のリプレース工事の本格化に伴い増加が見込まれる。
- Q. 伊方発電所3号機が停止している中、中期経営計画においてターゲットとしている2020年度の業績・配当水準に対する見通しは。
- A. 伊方発電所3号機の今後の稼働状況次第で、経営目標の達成に向けたハードルが高まることも懸念されるが、仮処分決定の取り消しによる事業経営の安定化を早期に実現するとともに、「販売力・収益源の抜本強化」と「事業効率の徹底改善」を両輪に、収益力改善に向けた取り組みを加速し、着実に目標を達成していく。
また、これを前提に、2020年度までに1株当たり配当額50円の実現を目指す。

以 上